制度には多くの医療機関に参画してほしいと考えており、日医も尽力していきます。

【医療DX】

国民、患者への安全、安心でより良い医療の提供と医療現場の負担軽減に資するものでなければなりません。中医協で日医から強く働きかけ医療DX推進体制整備加算に電子処方箋導入が要件とならない点数を新設させることができたのは大きな成果です。

【医薬品をめぐる最近の状況】

これまで日医が主張してきたドラッグロス/ラグの解消、医薬品安定供給網の強化や供給や後発医薬品の安定供給確保のため厚労省は今国会に薬機法改正案が上程されています。一方でOTC類似薬の保険適応除外を求める動きがあります。医療機関への受診控えによる健康被害や自己負担の増加、薬の適正利用が困難、など国民皆保険の根幹の関係する問題となる可能性があります。

【７月の参議院選挙】

医療の未来を左右する可能性があり、日本医師連盟は釜萢副会長を組織内候補として擁立を決定しています。郡市医師会、医師連盟に絶大な応援をお願いします。

次に各ブロックからの代表質問は合計19題ありました。北海道ブロックからは、野中代議員が学校医不足について質問し、渡辺常任理事が環境整備に厚労省、文科省と協力して対処していく。また大原代議員からの持続可能な医療を提供するための税制改革の提言の質問に、宮川常任理事が控除対象外消費税の問題とへき地勤務医師や偏在解消に協力的な病院勤務医に減税措置などをこれからも検討していくと回答がありました。

他の質問は「病院と診療所の分断を図る動き」「医師の働き方改革」「医療DX」「認知症対策」「新たな感染症に対する対応」「医師会立看護学校」「医業承継支援」など様々な問題が提起されています。特に2024年度診療報酬改定で新設された生活習慣病管理料Ⅱなどの廃止を求める質問を発端に、現在の診療報酬に対する不満や要望が相次ぎました。松本会長や城守常任理事は、社会保障関係費を高齢化による増加分に相当する伸びに収めるという目安対応が2021年骨太の方針に書き込まれ、この考え方が踏襲されているのが根本原因との認識を示し、目安対応というフレームを取り払うため、日医が政府、与党にしっかりと働きかけています。また、診療報酬１点単価問題や、維新の会が国民医療費を年間４兆円削減し、現役世代の一人当たりの社会保険料負担を６万円引き下げるという主張を問題視し、日医としてしっかりとした対応をお願いしています。医療の問題は様々な問題が山積していますが、各ブロックからの要望として、日本医師会が国民に正確な情報の発信が足りず、理解を得ていない状況で、これからは様々なツールと機会を利用して、現在の医師や病院、診療所がおかれている状況を国民に理解してもらう広報活動を推進していく予定ですと述べられました。

今回、様々な質問や関連質問がありましたが、特に医療費の問題が物価上昇に追い付かず、経営に大きな影響が出ており、日本医師会の実力が試されることになりそうです。

日本医師会公式YouTubeチャンネルの登録ならびに 日本医師会LINE公式アカウントの友だち追加へのご協力のお願い

日本医師会では公式YouTubeチャンネルやLINE公式アカウントを通じて、さまざまな情報を提供しています。それらの情報をご活用いただくため、ぜひ、YouTubeのチャンネル登録ならびにLINEへの友だち追加を、下記の二次元バーコードからお願いいたします。

●日本医師会 公式YouTube チャンネル

●日本医師会 LINE公式 アカウント

問い合わせ先：日本医師会広報課　E-mail：kouhou@po.med.or.jp